

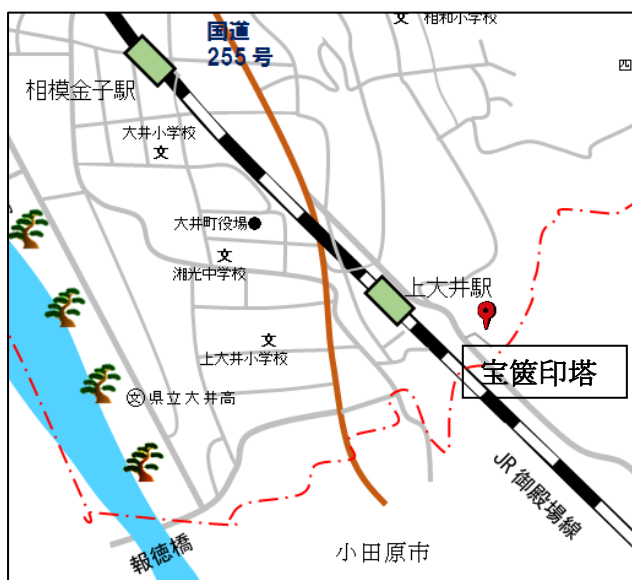
「頼朝さん」と慕われる 余見の宝篋印塔



町指定重要文化財 昭和 47 年 3 月 29 日指定

上大井地区の個人所有の竹やぶ内に古来「頼朝の墓」または「頼朝さん」と呼ばれる宝篋印塔がありま
す。江戸時代の天保年間に作られた『新編相模国風土記稿』には疫病にかかってしまった人にこの塔のコケを煎じてのませると病気が治るといわれていたことが書かれており、昔からこの塔は地元の人から崇敬されてきました。

宝篋印塔というよびかたは、もと
もとお経（宝篋印陀羅尼經）を納めたことからきています。中国から伝わり、日本では平安時代後期より西日本で造られ、墓地や追善塔に使われたといわれています。



余見の宝篋印塔は、塔台の側面に刻まれた銘文より、作られたのは嘉元2（1304）年で僧覚一、大仲臣金光が中心となり、一結衆50人の協力によるものです。

このことからこの塔は関東形式の宝篋印塔では最古のものではないかといわれています。しかし、誰のものなのか学者により説が分かれています。